

問い合わせ先

第二管区海上保安本部海洋情報部

監理課長 長尾 道広

電話 022-363-0111 (内線 2510)



平成24年2月24日

第二管区海上保安本部

## 震災後の気仙沼湾の海底の状況が明らかになりました

震災後に実施した気仙沼湾の精密な水深測量の結果がまとめ、気仙沼港の岸壁付近及び大島西側の航路（浅海域）の海底の状況が明らかになりました。

第二管区海上保安本部では、東日本大震災により被災した管内の港湾について、復旧・復興のための輸送路を確保し、水深の変化や海底の障害物の状況等を把握するための測量を実施しています。

今般、昨年10月に、海上保安庁測量船「天洋」（430トン）により実施した気仙沼湾における測量データの解析処理が終了し、航路などの海底の詳細な状況が明らかになりました。（詳細別紙参照）

震災前と比較して、変化していた主な点は以下のとおりです。

- (1) 朝日ふ頭東側の岸壁前面において、通常海底とは異なる異状物が多数あり、震災前に比べて水深が最大で約1.5m浅くなっていました。また、気仙沼港内に多数の異状物が確認されました。
- (2) 気仙沼港内の航路等が狭まった箇所においては、震災前に比べて水深が最大で約7m深くなっていました。
- (3) 大島西側の航路付近においては、震災前に比べて水深が最大で約1.5m深くなっていました。

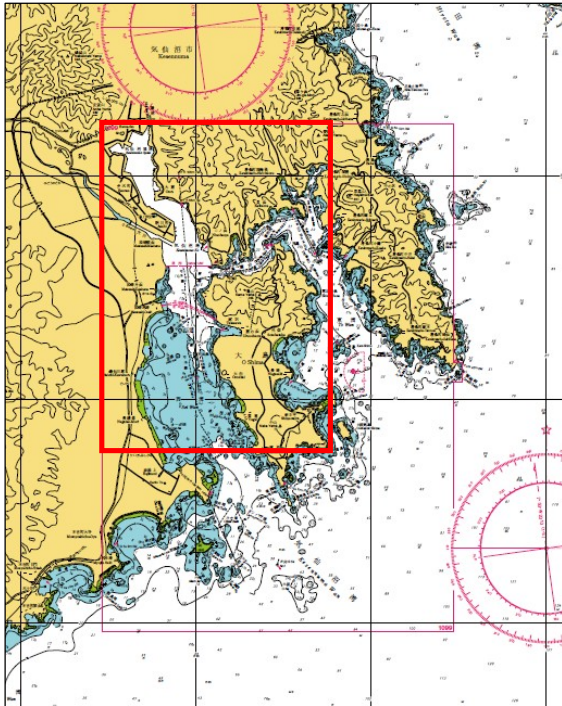
海上保安庁では、この測量結果を反映させて海図を3月中に改訂する予定です。

なお、航行の安全のため、障害となる異状物については、既に二管区水路通報<sup>\*</sup>で情報を提供しています。

<sup>\*</sup>二管区水路通報 管内の船舶交通の安全に必要な情報をホームページで提供しています。

ホームページ <http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN2/tuho/index.html>

気仙沼湾の別紙の区域  
(赤線で示した区域)



気仙沼湾の水深測量を実施した測量船



総トン数 430 トン  
主要寸法 (全長×巾×深)  
56.0×9.8×5.0m  
速力 約13ノット  
航続距離 約5,400海里  
主要観測機器  
マルチビーム測深機  
XBT  
ADCP

### 震災後の気仙沼湾 気仙沼湾の海図に測量結果を重ねたもの

